

学位論文審査の結果の要旨

佐藤 秀樹

本研究は、バングラデシュ・クルナ市を事例とし、開発途上地域のウエイスト・ピッカーの社会的排除を緩和して地域社会と協働した廃棄物管理を目指した能力開発プログラムの実践を考察している。そして、開発途上国のウエイスト・ピッカーを対象とすることで、都市化による社会経済構造や環境保全の問題が交錯する論点を考察し、主に農村から流入する彼らの社会的包摂を目指した教育的な意義を明らかにしたところに本研究の新規性を見いだすことができる。これまでのウエイスト・ピッカーの研究では、個々もしくは組織化されたウエイスト・ピッカーが有価廃棄物の分別・回収を行ってごみの仲介業者へ売り渡すことで生計向上へ寄与する経済的側面、異臭を放つ劣悪なごみ集積場で働くことによって生じる病気の衛生・健康的側面、地域の資源循環に貢献する環境的側面に焦点を当てたものが主として報告された。

本論文では、ウエイスト・ピッカーの社会的排除の緩和を目指した教育支援プログラムの開発内容や効果についてそのプロセスを分析しており、今後の開発途上国においてウエイスト・ピッカーが地域社会と協働した廃棄物管理に向けた能力開発の研究を進めるうえで有用な情報を提供している。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は全員一致して、本論文が博士(農学)の学位論文として十分価値があるものとし、合格と判定した。

最終試験の結果の要旨

佐藤秀樹

最終試験は、平成29年7月1日に東京農工大学農学部にて、学位論文の公开发表に引き続き、論文審査委員により行われた。最終試験では学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。その結果、本審査委員会は佐藤秀樹君が自立して研究を進めることができる学力と見識を有しており、博士(農学)の学位を授与するに足る資格があると認め、最終試験を合格と判定した。